

他誌掲載論文抄録

ポリオワクチン被投与児及びその母親からのウイルス分離

Virus isolation from OPV-vaccinated children and their mother

鍛塚 眞, 上田竜生, 右田雄二, 野口英太郎(長崎県衛生公害研究所)
米山徹夫, 清水博之, 吉田 弘, 吉井久美子, 萩原昭夫(国立感染症研究所ウイルス第二部)
日本臨床ウイルス学会誌「臨床とウイルス」: Vol. 28, No.3, pp143-150, 2000

ポリオワクチン初回被投与乳幼児及びその母親 20 組 41 名を対象とし、ポリオワクチン被投与者からのウイルス排泄及び母親へのウイルス感染の状況を検索し、同時に分離ウイルスの性状等についても検討した。

ポリオワクチン初回投与後においては被投与乳幼児糞便からのウイルス分離率は1型が最も高く、7日目で95%、28日目でも70%前後であった。2型は、14日目では95%であったが、28日目には52.4%に低下した。3型の分離率は最も低く、投与後3日目でも38.1%であり、28日目には9.8%まで低下した。一方、母親からウイルスが分離されたのは2名だけであり、分離されたウイルスは、1名は1型のみであったが、他の1名は1, 2, 3型混合で検出された。ワクチン投与前後で、母親の血清中和抗体価に変動がみられたのは、1型で1名、2型で2名であった。

一部の分離ウイルスのVP1と3D領域での、polymerase chain reaction-restriction fragment length polymorphism (以下、「PCR-RFLP」と略す)による検索によって2つの recombinant ウイルスが検出された。

日韓海峡沿岸河川水質生物検定共同調査報告書の概要

山崎正敏(福岡県保健環境研究所), 植松京子(佐賀県環境センター),
石崎修造, 他
日韓海峡沿岸県市道環境技術交流会議, 全227ページ, 2000年9月

本共同調査は、1996年8月佐賀県で開催された「日韓海峡沿岸環境技術交流会議」での合意に基づき、日本の北部3県(福岡県・佐賀県・長崎県)と韓国南岸1市3道(釜山広域市・慶尚南道・全羅南道・済州道)が水質分野の共同事業として1998年4月から2000年3月までの2年間実施したものである。

共同調査では河川水質の総合的な安全性を確認し、環境の生物学的良好さを把握評価するため、日韓双方が共同して同一手法に基づく河川水質の生物検定調査と生物相調査を行い、河川水質の生物学的評価を行うと共に手法の確立のための妥当性を検討した。

生物検定の項目としては藻類生長阻害試験、ミジンコ急性遊泳阻害試験及び繁殖阻害試験を行い、河川生物調査として付着藻類調査、大型底生動物調査を行った。日本側での調査は佐賀県の嘉瀬川、韓国側では全羅北道から全羅南道にかけての蟾津江で行った。

調査の結果、生物検定試験により理化学的水質測定のみでは評価できなかった河川水質の異常を検出できた。一方生物調査では、汚濁階級に基づく評価では河川水質の有機汚濁状況以上のことはわからなかったが、種類数、個体数及び多様性指数の変化やスコア法による評価を検討することにより生物相の異常を検出できた。そして、これらの結果と水質分析結果を合わせることで、蟾津江では河川水の異常が生物相に及ぼす影響を明らかにできた。

編 集 委 員

委員長	白井 玄爾	(公害研究部)
副委員長	平山 文俊	(衛生研究部)
委員	田中 秀二	(大気科)
〃	馬場 強三	(水質科)
〃	八並 誠	(衛生化学科)
〃	野口 英太郎	(微生物科)
〃	萱場 正一	(環境生物科)

長崎県衛生公害研究所報第45号

(平成11年度業績集)

平成12年11月 印刷・発行

編集・発行 長崎県衛生公害研究所

(〒852-8061) 長崎市滑石1丁目9番5号

TEL 095-856-8613

FAX 095-857-3421

NAGASAKI-KEN EISEI KOGAI KENKYUSHO

9-5、NAMESHI 1-CHOME、NAGASAKI、JAPAN(PC852-8061)

(再生紙を使用しています)